

4. 2017シーズンを振り返って

2017シーズンを振り返って

監督 萩井好次 (H10年卒)



1年間多大なるご支援・ご声援を頂きまして本当にありがとうございました。期待に副える結果を出すことはできませんでしたが、野中主将を中心に学生達は本当によく努力してくれました。最後の天理大学戦、そして翌日の近畿大学ジュニア・コルツ戦、全員で謙虚に泥臭く戦う彼らの姿を見て、これから同志社は必ず変わっていくと確信しました。そのきっかけを作ってくれた4年生の思いを来年以降に必ず繋げるべく昨期に結果を出せなかった原因を振り返ります。

① 指導体制の遅れ

監督を中心に指導体制の確定に時間がかかってしまったため、すべて後手に回ってしまい、チーム完成が遅れてしまいました。この点に関しては、特に4年生に本当に辛い思いをさせてしまい深く反省しています。崖っぷちに立たされた近畿大学戦、そして最後の天理戦でやっとチームが一つになりました。4年生を中心にしたこんな素晴らしいチームが1ヶ月・2ヶ月前にできていれば結果は全く違っていました。振り返るとチーム始動の遅れと全て関係していたと反省しています。

② 積み上げの差

例えば、天理大学や京都産業大学はフロントローが全員4回生であり、しっかりと4年間鍛えあげ、積み上げてきたスクラムを武器にリーグ戦で安定した力を出して戦います。例えば、関西学院大学は何年もかけて作り上げてきたトレーナー体制を武器にフィジカルで安定した力を出すことができます。こうした積み上げに対して同志社はまだまだで、これからも芯を捉えた正しい努力を積み上げていかなければなりません。昨年一年間では差を埋め切ることができませんでした。これは私の力不足です。結果に対して再現性のある指導体制を整えて、学生が正しく努力を積み上げられる環境を作っていく必要があります。

③ 怪我によるメンバーの確定の遅れ

練習がハードになったこともあり、シーズン通して怪我人が多くなってしまい、メンバーを固定することができないままリーグ戦を迎えてしまいました。これもチーム作りが遅れる大きな原因になりました。私の全体的なコントロール不足が原因ではありますが、怪我なく努力できるより良い環境を整えていってあげたいと切に考えています。

悪いことばかりであったかという、決してそうではありません。太田コーチのもと、学生達は例年以上にハードな練習をしてくれました。ブレイクダウンやスクラムなど、避けて通りたい練習に正面から向き合ってきました。若い学年が去年経験したものを次年度以降もしっかりと積み上げていけば、来年、再来年に必ず良い花が咲くと信じています。

コーチ・監督と2年間やらせて頂いて改めて感じるのは、同志社の組織的なポテンシャルの高さです。

今はまだ色々な方向に力が分散した状態だと思います。大学・OB会・学生が一体となり、思いを一つにしていければ、必ずもっともっと良いチームになります。来年以降も、力を合わせて頑張りたいと思います。変わらぬご支援・ご声援のほど、宜しくお願い申し上げます。

2017年度シーズンを振り返って

FWコーチ 太田 春樹 (H21年卒)



はじめに、4回生の皆さん、4年間本当にお疲れ様でした。3、4回生の2年間コーチさせていただきましたが、今シーズンは本当にタフな1年だったと思います。4回生を中心に「BOND」というチームスローガンの下、1年間通してハードワークに取り組んでくれた事に感謝しています。

今シーズンは、開幕戦から思うような結果がでず非常に苦しいシーズンになりました。シーズンが深まるにつれて急速に成長し続けているチームだと感じていたので、大学選手権に出場できなかったことは非常に残念であると共に、私自身のコーチングが力不足だったと、自責の念にかられております。

苦しいシーズン半ば、各々がもがきながらも自発的に4回生同志でミーティングを重ね、意見をぶつけ合うことでチームが一つになった時の事は今でも鮮明に覚えています。

志しなかばでシーズンが終わってしまったものの、シーズン終盤にはチームスローガンである「BOND」を体現し、4回生のリーダーシップの重要性を後輩に残してくれたことは来年度以降の貴重な財産になると、私は信じています。

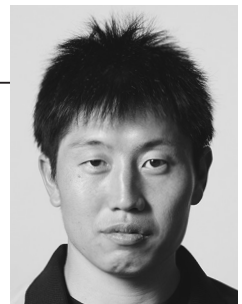
新4回生以下は、昨年11年ぶりに大学選手権ベスト4の結果を超えられるよう「高い志」を持ち、今シーズンの悔しさを忘れることなく、「臥薪嘗胆」の思いを胸に刻み、1日1日を大切に過ごして欲しいと思っています。

末筆になりましたが、卒業生の皆さんは同志社大学ラグビー部で培った経験を活かして、新生活でのご成功をお祈り致しております。くれぐれもご自愛ください。

また、2017年度シーズンの活動において、多大なるご声援、ご支援賜りました、大学関係者の皆様、OB会の皆様、ファンクラブの皆様、そしてご父兄の皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援賜りますよう、宜しくお願いいたします。

2017年シーズンを終えて

BKコーチ 飛野 達 (H19年卒)



平素は多数の皆様から多大なるご声援・ご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。

2017年度シーズンは、中々思うような結果の出ない、厳しいシーズンとなりました。学生達を勝利に導いてあげることができなかったことに、非常に責任を感じております。

ただ学生達は野中主将のもと、最後に4回生を中心に『BOND』というスローガンに恥じない、1

つのチームとなってくれました。

関西リーグ最終戦の天理大学戦、敗れはしましたが、体を張り続けたキャプテンの姿や、4回生が中心となり、一丸となって天理戦に臨む姿は後輩たちにもよい影響をもたらしてくれたと感じています。

今年の4回生は非常に真面目で大人しい選手が多かったように思います。よく自主練習をしていました。自主練習の結果、伸びてきた選手もたくさんいます。BKで言えば、特にSHは夏合宿で全員合計5万本のパスを投げ込み、パス精度の改善に取り組みました。合宿から帰京後はSHからのハイパントも毎日1人100本蹴りこみ、学生たちのひたむきな努力が非常に頼もしかったことを記憶しています。

しかし、迎えた大学選手権では帝京大学が前人未到の9連覇を達成しています。圧倒的なフィジカルの差や、スキルの差は同志社とは現実的にまだまだ差があると感じています。同志社大学ラグビー部の目標はあくまでも日本一です。既に新4回生を中心に新シーズンへ向けて練習をスタートしていますが、フィジカルトレーニングの大切さを再度確認し、2017年度シーズンの4回生が残してくれた、1つの目標に向かって、チーム全員が1つとなって、ハードワークすることの大切さを忘れることなく、これまで以上のハードワークで取り組んでいってほしいと思います。

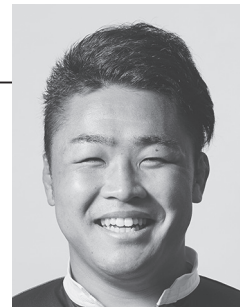
最後に、四回生のみなさん、お疲れ様でした。

ラグビーを続けるみんなは、これからも同志社でラグビーをしていたということに誇りを持って、頑張ってください。応援しています。社会人として戦っていくみんなは、理不尽なことだらけだと思いますが、乗り越える力はあると思います。何が起きてもすぐにリロードしてください。きっと大丈夫だと思います。

最後になりますが、今シーズンご支援いただきましたOBの皆様、ファンクラブの皆様、ご父兄の皆様、本当にありがとうございました。これからも引き続きご支援のほど宜しくお願い致します。

今シーズンを振り返って

前主将 野 中 翔 平（4回生・東海大仰星）



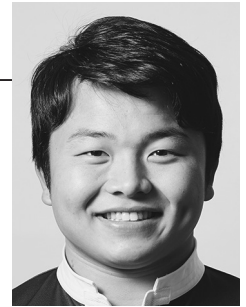
平素より同志社大学ラグビー部に対しまして様々な形で多大なるご支援を賜り誠に有難うございます。2017年度同志社大学ラグビー部は11月26日をもってシーズンを終えました。関西Aリーグでは6位という不甲斐ない結果に終わってしまいました。春から積み上げてきたもの、夏合宿で得れたものは確かにありましたが、それを勝利に結びつけることができませんでした。私がプレーヤーとして、主将としての力不足が招いてしまった結果です。OBの皆様方や負けが続いていても、会場で大きな声援を送って下さったファンの皆様方には感謝の気持ちと申し訳ない気持ちでいっぱいです。勝たないと胸を張って言えないことが2つあります。1つ目は過程の肯定。自分たちのやってきたことが正しかったのだということ。2つ目は学生スポーツにおいて勝利より大切なものがあるということ。これは、勝者のみが口にできることだと私は考えています。自分たちがやってきたことや、監督をはじめとするスタッフや仲間が最高であることを伝えられない。こんなに悔しいことは他にありません。何か足りなかったのです。ですが、今年のチームが本当に日本一にふさわしいチームなのか、勝ちに値すべきチームだったのか、胸を張ってYESと言える自信がありません。全員が本当に目指していたのか、全員が勝ちに本気だったのか、もう出来ることは

全てしたのか、一瞬一瞬を全力で取り組んだのか…。同志社は再び自由とは何か？ということをお聞きしなければいけないと思っています。今後も同志社大学ラグビー部の応援を宜しくお願い致します。1年間主将をやらせて頂けて幸せでした。

ありがとうございました。

今シーズンを振り返って

前副将 阿部 亮介 (4年生・小倉)



昨年度副将を務めさせて頂きました阿部亮介です。1年間を通して、ラグビーに没頭できる環境を整え、応援して頂いたOBや保護者の方々、監督・コーチ陣には本当に感謝しています。ありがとうございました。しかし、2017年シーズンは関西Aリーグ5位、大学選手権出場を5年振りに逃し、結果で恩返しできなかったことはとても不甲斐なく思います。関西Aリーグでは、初戦の関西学院大学の敗戦から始まりました。その後も、関西大学と京都産業大学に敗戦し、もう後がない状況になりました。そして、シーズン終盤の近畿大学戦前1週間から漸くチームに一体感が生まれましたが、纏まるには遅すぎて、天理大学戦がチームの最後の試合となりました。

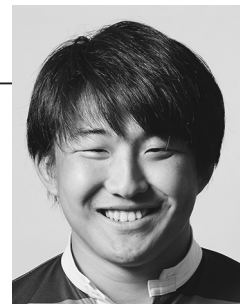
後輩たちには、最後の試合で今年のスローガン「BOND」の大切さと、それを創り上げる大変さを少しでも感じさせる事ができたら嬉しく思います。もし感じさせる事ができていたなら、私達を反面教師でもどんな形でもいいので、新チームに生かして欲しいと思います。

私個人としては、副将として未熟な部分が多く、更に、怪我でチームにとっても迷惑をかけてしまいました。正直なところ、後悔は沢山残っています。しかし、このチームで、この同期でラグビーができた時間はとても幸せでした。良い結果は残せませんでした。それ以上に大切なものを得ることができたと思います。

最後になりますが、4年間本当にありがとうございました。今後も同志社大学ラグビー部で一生懸命頑張っている後輩たちの応援を宜しくお願い致します。

今シーズンを振り返って

前副将 丸山 尚城 (4年生・茗溪学園)

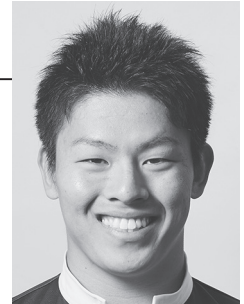


2017年度副将を務めさせて頂きました丸山尚城です。2017年のシーズンを振り返ってみると、決して満足のいく結果ではありませんでしたが私のラグビー人生で最も濃い一年となりました。私たちが目標に掲げていた大学日本一には届きませんでした。色々な経験をさせていただき個人的には悔いはありません。チームになる難しさ、チームで勝つための難しさを痛感致しました。チームで勝つためには部員全員が同じビジョンを持ち全員がリーダーという意識を持たなければならないと感じました。グラウンド内では細かなミスや反則を犯した者に対してどこまで厳しく指摘することができるかが重要だと改めて感じました。これらのことは一見

単純なことであり、当たり前に行えることだと思われるかもしれませんが、当たり前のことを漏れなく確実にすることが1番難しく、1番チームの成長に繋がると一年を通して痛感しました。これからはDURCのファンとして後輩たちを支え、また後輩たちがなにか困難な壁にぶつかることがあればできる限りのアドバイスをしていきたいと思います。1年間副将を務めさせていただきありがとうございました。これからもDURCの応援をよろしくお願い致します。

今シーズンを振り返って

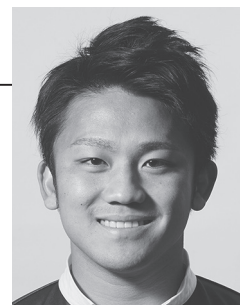
前主務 鐘 水 航（4年生・修猷館）



2017年度主務を務めさせて頂きました鐘水です。OBを始め、ファンクラブ、保護者の皆様には、1年間多くのご支援を賜り、ラグビーに集中できる環境を整えて頂きましたことを、心より感謝申し上げます。今シーズンは、新たに就任された萩井監督のもと、野中主将を中心に昨年の全国ベスト4を超え、日本一を目指して日々厳しい練習に取り組みました。昨年のメンバーの多くを占めていた4年生が卒業した今年は、フレッシュなメンバーで臨む年となり、FW強化に力を入れてきました。春先は慶應大学や早稲田大学に勝利をあげたものの、その後は勝ち星に恵まれず苦しい試合が続きました。関西リーグに入ってから、なかなか歯車が合わず連勝がありませんでした。結果としてベスト4は愚か、大学選手権出場も叶いませんでした。試合に出ている選手だけでなく、試合に出ていない部員、スタッフ、指導していただいた監督コーチ陣、応援していただいた全ての方々がもがき苦しんだ1年間。しかし、私達はこの1年間が無駄ではなかったと確信しています。毎日本体をぶつけ合い、夏合宿では坂道でスクラムとモールを組むなど徹底的に体をいじめました。ただ、それでも結果を残せなかったという事を後輩達は忘れずに、来年以降戦ってほしいと思います。

今シーズンを振り返って

前寮長 後 藤 雅 貴（4年生・大分舞鶴）



今シーズン、ラグビー部に対する多大なるご支援、ご声援ありがとうございました。今年、春シーズンに初めてAチームとして試合に出させてもらい、多くの経験をさせて頂きました。チームとしてはなかなか結果が出ず、苦しいシーズンでした。最終的に関西6位という不甲斐ない結果で終わってしまい非常に悔しい1年となりました。それに加えて私自身、秋シーズン開幕1週間前に怪我をしてしまい、試合に出場することができなかったことが1番の後悔です。しかし、多くの方々の支えを受け、チームとしての今期最後の試合の近大戦に出場することができました。これは、自分1人の力だけでなく多くの方々がサポートしていただいた結果だと思っています。多くの方々に支えられてラグビーができているのだということを改めて実感しました。これからは社会人として、同志社でラグビーを通して学んだことを活かし、精進し、これまで支えてくださった多くの方々に恩返しできるよう努力していきたいです。今後ともラグビー部へのご支援、ご声援のほどよろしくお願い致します。